

第20号発刊によせて

奈良大学理事長 市川 良哉

『奈良大学情報処理センター年報』第20号《記念号》発刊に際して、これまでの関係者各位のご努力に敬意と感謝の思いを込めて、お祝いを申し上げます。

本学は1988年（昭和63年）室来のキャンパスをここ山陵キャンパスへ全面移転し、もとの文学部に加えて社会学部を増設すると同時に、この情報処理センターが開設されたのでありました。爾來、20年余が経過いたしました。この間のセンター年譜を見ますと随分と変わりました。たまたま、わたくしはキャンパス移転や社会学部の増設、情報処理センターの開設などの事業にたずさわったこともあって、振り返ると、当時のことがいろいろ懐かしく思い出されます。

情報処理センター開設にあたっては、どのような機器を導入するかの議論が中心になりました。詳しくは記憶していませんが、最初は情報処理センターの中央コンピュータは汎用機で NEC ACOS430/70が設置されました。第2世代はスーパーミニコンピュータで CONVEX C3420を導入（このとき、わたくしはセンター所長を兼任していましたが、アメリカから CONVEX の社長が挨拶に来られるような時代でした）、第3世代からはワークステーションとなりました。クライアント機はコマンド系からウィンドウズ系へと変わっていきました。こうした流れの中では、コンピュータの操作法に重点が置かれた情報教育活動が多彩になされていたのであります。

しかし、この間にパーソナルコンピュータの性能が格段に精巧なものとなるに従って、中央コンピュータを廃止し、教育研究系のネットワークシステムをより充実させてきました。現在は操作法に重点を置いた情報教育からコンピュータを学習に十分に活用出来るようにし、学生諸君の教育・研究支援に重点を置いた活動に変化してきています。このために、情報処理センターは学内外からの eラーニングシステムの利用や WEB 履修、WEB ポータルなどに対応することにより、情報のデジタル化の促進と、教育・研究への eラーニングシステムの積極的な活用をはかるように努力しているのであります。

今日、高等教育の質の保証の問題が大きく取り上げられています。その基本には自主・自律の学習があります。その点からも、こうした本学の情報教育の一層の推進をはかることは大切であり、その活動を支援してまいりたい所存であります。